

平成 26 年 2 月 7 日

学 位 論 文 の 審 査 要 旨

学位申請者氏名： 高 娃

論 文 題 目： Revitalization of an old shopping street based on analysis of citizen's behavior

(和訳) 市民の行動分析に基づく商店街活性化

論文の概要及び判定理由

高娃氏は、地方都市で問題となっている中心商店街の衰退に関し、ある地方都市の中心商店街を取り上げて、二つの大規模アンケート調査のデータ解析に基づき対応策を提案している。さらに、改善策の一つであるロコミの有効性について実験を行うことにより検証を行っている。

高娃氏は、まず、市民に対する大規模アンケート調査結果のデータ解析から市民の意識・行動等を分析し、市民の購買行動及び中心商店街への評価を、競合となる近隣大型小売店、郊外型大型店と比較して地域ごとに把握した。この分析により、商店街での買い物には移動が必要とされるがその移動が不便であること、商店街の魅力が商店街にあまり来ない人に認識されていないことという、商店街の2つの問題を抽出した。さらに、商店主調査で明らかとなった商店街の現状を考慮して、中心商店街を活性化するための方策として、商店街を巡回するEVバスの活用と、商店街の魅力を伝達するためにロコミの活用の二つの改善策を提案した。

さらに、以上の改善策のうち後者の商店情報の市民への伝搬方法として、ロコミの有効性を実験的に検討している。ここでは、ある大学の二つの学科の学生集団を対象に、外食に関する会話関係を二度にわたり調査した結果を比較分析している。結果として得られたロコミネットワークの構造を解明するために、 n -密度、有効辺率などの指標を新たに定義してロコミネットワークの構造を評価するとともに、具体的な商店情報を二回の調査の間で一方の学生集団のみに流す介入実験を行うことで、ロコミによる情報伝搬の違いを確認し、ロコミの有効性を検証した。以上の研究では、グラフ理論的な観点からロコミネットワークの構造を分析する方法を与え、具体的な商店情報の伝搬を測定している。また、SNSなどインターネット上で構築される社会的ネットワークに関しての研究は多いが、ロコミに関してこのような分析を行っていることが本研究の特長となる。

以上のように、本論文では、実態調査に基づき実証的に社会的・学術的に意義のある多くの知見を提案・実証しており、博士（工学）の学位に値するものと判定した。

審査年月日 平成 26 年 2 月 7 日

審 査 委 員

主査	群馬大学理工学研究院	教授	関 庸一	印
副査	群馬大学理工学研究院	教授	鵜飼 恵三	印
副査	群馬大学理工学研究院	教授	山崎 浩一	印
副査	群馬大学理工学研究院	教授	天谷 賢児	印
副査	群馬大学理工学研究院	教授	宝田 恭之	印

関連論文

1. 著者名 Gaowa, Yoichi Seki and Takayuki Takarada
論文題目 Relationship between Word-of-Mouth Network and Behavioral
Tendency - Preliminary Research for Local Downtown Activation
(和訳) ロコミネットワークと行動習慣の関係
—地場商店街活性化のための基礎研究—
雑誌名 International Journal of Marketing Studies
Vol. 5, No.5, pp. 1-11 2013年10月
2. 著者名 Gaowa, Yoichi Seki, Kenji Amagai and Takayuki Takarada
論文題目 Analysis for activation of the old shopping streets based on
the surveys of citizens and storekeepers
(和訳) 市民及び商店経営者調査に基づく商店街活性化分析
雑誌名 International Journal of Marketing Studies
Vol. 6, No. 2 2014年4月 掲載決定

※ 掲載決定済のものも記載すること。